

■日本貨幣商協同組合新理事長インタビュー

キーワードは「安心」

一〇月二四日、日本貨幣商協同組合の理事長に「セキグチ」の関口寧氏が就任された。そこで、新理事長に就任の抱負と、コイン収集界の今後の展望を聞いてみた。

理事長の関口です。よろしくお願
い致します。

まず最初に当組合の理念と活動について説明致します。当組合は加盟店の相互利益を追求し、また、広く一般に貨幣収集を普及する為に様々な活動を行っています。例えば、東京国際コイン・コンヴェンションをはじめとする年七回の即売会の主催及び共催、次に毎年発行しております『日本貨幣カタログ』、そして組合鑑定書の発行です。

まず、年七回の催事ですが、今後
も欠かさず開催していきたいと考えて
います。東京、名古屋、大阪の三
都市ですが、各所で集客力強化のた

めの様々な企画を考えています。

中でも毎年四月か五月に開催して
おります東京国際コイン・コンヴェ
ンション(TICC)は、催事名に「国
際」と銘打っておりますので、国内
外の数多くの業者に出店して頂いて
おります。ここ数年は昨今の各社オー
クション結果を見ても明らかですが、
外国コインの人氣が強くなり、それに伴
って外国業者の出店も増えて参りまし
た。思い返すと同イベントの第一回
目も国内業者と国外業者がほぼ半々
でしたから、現在は当初の「国内外
の貨幣商が一堂に会する」というイ
ベント理念に即していると感じてお
ります。催事は賑やかに越したことは
ありません。特に東京国際コイン・
コンヴェンションは国内最大のコイ
ン即売イベントですから、今後も多
くの方に来場して頂くべく、企画を
考えていきます。

次に真贋の問題です。これは業界



日本貨幣商協同組合 理事長 関口寧氏

最大にして永遠の懸念材料といえま
す。特に最近では一見するだけでは
全くわからないような非常に精巧な
ものが出回るようになってきました。
そこに、商品の販売方法が従来と大
きく変化して来たこと(お客様との
一対一の対面販売から、インター
ネットを中心とした画面上だけで成
立する非対面販売への変化)が重なり、
貨幣を取扱う業者や気軽にでき
るオークションの類などがネット上

を中心にかなり増加しました。

結果として、私たちはネットを介
して以前よりも多くの商品を見るこ
とが出来、気軽に購入することが出
来るようになりました。これは素晴
らしいことです。ただ一方で当然の
ことながら、贋物を掴まされる可能
性も増えてしまいました。

現状では安心して商品を購入でき
ない状況と言えるでしょう。とすれ
ば当然お客様は保証を求めるように

なりません。

当組合では真正品であることを保証する鑑定書を発行しています。このような世相を反映してか、最近は鑑定書のお問い合わせや申請が非常に多くなってきました。申請頂いたものは一点一点厳正に鑑定しております。中には判別が難しく、時間を要するものもありますが、鑑定に誤りがあつてはいけません。この真贋鑑定の正確性が当組合の生命線です。私はここが最重要だと考えております。

ただ、注意点として鑑定書の発行範囲は日本貨幣に限らせて頂いております。また、鑑定書の効力は鑑定書の裏に明記しておりますが、鑑定書に記載されている日付より向こう一〇年間となります。

昨今、日本の近代貨幣や外国貨幣が海外のグレイディング会社によって真贋鑑定、状態評価をされ特製ケース（スラブ）に封入されるのは見慣れた光景となりました。私どもへの要望として海外のPCGS社やNGC社が行っているようなグレイディング（状態評価）のサービスを行っているかどうかという声も頂きますが、当組合ではコストなどを考慮すると簡単に取り組める事業とは考えられず、現状、難しいと考えており

ます。

最近では先の海外鑑定業者が使用しているケースをまねた私作のケースも確認しております。コインだけでなくケースまで確認しなければならぬ状況になってきました。

贋物の問題は「いちごっこ」ともいわれます。組合加盟店では贋物情報は共有し、徹底して贋物は販売しないようにしております。組合加盟店なら「安心」だと思つて頂けるよう今後も努めて参ります。

次に当組合は「貨幣の収集」をさらに多くの方に知つて頂きたいと考えております。

当組合が貨幣収集の普及のために行っているのは、『日本貨幣カタログ』の発行です。毎年情報に大小はありますが最新の状態で更新しております。全国の組合加盟店のほか、大手書店で販売しております。

ただ、残念ながら書店に平積みにされている訳ではありませんので、多くの方に見て頂けてはいないのかなと感じています。一般の方に見て頂く、知つて頂くまでが、かなり遠いなと実感しています。

そこで、これはあくまで出来たらいいなということでしょうか。『日本貨幣カタログ』を今の時代に合わせて電子書籍化できないか

と考えています。書店だけに限らず、多くの方に目を留めて頂くこと、どんな小さなことでも収集活動のきっかけになればということを一に考えて策を練っていきたいと考えております。

最後にこれはどこの業界も同じ悩みであるかと思いますが、この業界も高齢化が進んでおります。これは売り手も買い手も共にであり、先にお話しした新たな層を取り込んでいくのはもちろんのこと、売り手である業者もきちんと次の世代へつなげていかなければなりません。具体的には贋物の情報であり、その判定のポイントです。真贋の正確な判別が、この業界が存続できるかどうかを決めるといってもいいでしょう。

現実として組合加盟店数は以前と比べて減少傾向にあります。今後この傾向は続いていくでしょう。だからといって、希望者は誰でも加盟可能というようには考えておりません。昨今、ネット上を中心にコイン投資を露骨に煽るような業者も増えています。全てが全て問題のある業者とはいえませんが、中には詐欺まがいの業者もいることもまた事実です。お客様に誤解や損害を与えるような業者を加盟させてしまつたら、それこそ業界の信用低下を招いてし

まいます。組合への加盟の際は審査に審査を加えて、慎重を期すことが重要です。

組合加盟店には長いところでは貨幣を扱って半世紀を超えるところもあります。組合自体も二〇一八年には設立五〇周年を迎えます。これまで培つて来た知識を次代に受け継いでいながら、五〇年続けて来た実績を武器に、皆様に加盟店なら「安心」だと思つて頂けるよう今後も邁進していきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

一月一〇日から一二日まで行われた東京コインショーは理事長に就任して最初の即売会であつたが、売り上げは上々だったようだ。

さて、今後の貨幣収集界に目を向けてみたい。二〇一九年には元号が変更される。それに伴い各種貨幣が発行されることだろう。また二〇二〇年は東京五輪が開催される。現在、貨幣を収集されている方の多くは前回の東京五輪（一九六四年）が収集のきっかけだった。当時のブームがあるから現在がある。次の東京五輪を二回目のブームにできるかどうか。五月一日をコインの日とするなど企画力のある彼である。その手腕に期待したい。（編集部）